

2016.4.24 復活節第5主日

互いに愛し合いなさい

ヨハネによる福音書 13:31-33a, 34-35

さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

説教

わたしはもともと出不精なんですけど、最近はずっと外にでるのがおっくうになってきました。それでも仕事の都合で外出しなくてはなりません。そうなるまわりの人がおっかなくてしかたありません。他人のことなどおかまいなしに自分のことだけ、自分の都合だけしか頭がない人ばかりに思え、うっかりしているとぶつかって怪我するんじゃないかとおっかないのです。でも、時々ハッとすることがあります。それは、なんとも自然に道を譲ってくれる人に会うことがあるからです。なかなか表現しづらいのですが、あきらかに気配がまわりの人たちとは違っている人がまれにいます。わたしの経験ではどうも白人が多いようです。彼ら、彼女たちはニコニコして暖かい気分をふりまいているように感じるのです。（もっとも観光にきているだろう白人さんたちは、キョロキョロしていてこっちが助けてあげたい気分になるのですが）

さて、きょうの福音では栄光と新しい掟のことが告げられています。
あらためてただのことばとして「栄光」を考えてみたのですが、これって日本語？というくらいわたしにとってなじみのないことに驚きました。聖書のことばとしてはよく使うので違和感はないのですが、日常語として振り返ってみると栄光という単語を使った覚えがありません。ネットで検索したところ学校や幼稚園、予備校や会社の名前はづらづらヒットするのですが、わたしと同じようにあんまり日常語としては使われていないんじゃないかと思いました。礼拝の中で二番目に歌うグローリア、大栄光の歌はわたしは大好きで、歌ってはならないと定められている時期があるぶん、ますます好きになるという感じです。先週、二元論のはなしをしました。きょうの栄光に対応することばはきょうの福音箇所には明示されていませんが「受難」です。この見方でいえば磔刑、復活、昇天という一連の受難の出来事がすなわち栄光なのだという意味になります。栄光に関してはこれくらいにして、次に新しい掟について考えて見ましょう。

<新しい掟>

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。ヨハネ 13:34

この新しい掟に対応する古い掟とはなんでしょうか。

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。レビ記 19:18

レビ記に示されている「隣人愛」とイエスが言われた「お互い愛」「互いに愛し合いなさい」と「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」との違いはどこにあるのか？あんまり違いがないようにも思われます。神学上ではこの違いについて議論はあり、キリスト教の各宗派ごとに定まった解釈もあるのでしようが今のわたしにはあまり興味はありません。問いをこのようにかえて考えて見ましょう。

「律法による愛（支配）」旧約と「御子による愛（支配）」新約

大雑把に言えばキリスト教聖書の世界では神の言葉を法として、つまり律法として理解していた時代を旧約と呼びます。そして神の御子イエス・キリストのことばを新約と称します。新約でのイエスのことばは法とはいわず掟といい、キリストの約束として解釈することが多いようです。キリスト教的に旧新の違いを極端に言えば、「法か、神か」「法による支配なのか、神（御子キリスト）による支配なのか」という設問になります。もっともキリストのことばを法とは解釈せず掟を解釈するというのもことばの言い換えに過ぎないという見方もできます。議論の余地を残す意味合いでは、ただ違いをだすために便宜的に掟といっているだけだろうという解釈も可能です。

<年季がはいる>

ところで、年季モノの家具という言い方があります。また年季のはいった職人という言い方もあります。熟練、円熟のねうちという意味になるのでしょうか。隣人愛とか、互いに愛し合いましょうとか、法による支配なのか、神による支配なのかを云々するより、まずわたしたちは年季を磨いたほうがいいかなあとおもいます。ニコニコして道を譲ってくれる白人さんはきっと年季の入ったクリスチャンじゃないのかなあとわたしは勝手に想像しています。それはクリスチャン暦なん年というだけではなく、育った環境や文化も含めてのことです。また、ツンツンして街をゆく人たちは隣人愛を知らないかわりに、ひとさまにだけは迷惑かけちゃいけないよって言われて育ったきた人たちなのかなあと想像します。ただツンツンしているだけでは迷惑じゃありません。かくゆうわたしもクルマを運転していて道路を横断しようとする歩行者を目にして道を譲る、一時停止することができません。100回に一回ぐらいしかできません。はつきりいって歩行者を見ていません、交通弱者を識別できません。余裕がないんです、急いでいるんです、言い訳は何通りもできますが、実際のところは千回に1回もできていないのだとおもいます。でも1回はできたのです。それを神様は見ていてくださいます。

(減点ばかり気にしていると「迷惑だけはかけまい」という思いになりがちです。でも1点でもとればという気持ちも大切です。わたしの実感としては「法」として受け止めると犯すべからずとなり「愛」として受ければ一回でも出来ればという気持ちになるような気がします)

999回だめでも9999回だめでも1回だけでもできたことをちゃんと見ていてくださる。それを覚えていてくださる憐れみに満ちた神に、そしてイエス様がいることをわたしたちは知っています。もちろんたったの一回しかできていないことを誇ることはできません。でも10回きたから合格とは神様はいわない、イエス様は1回しかできないわたしたちでも愛していてくださいます。きょうのみことばはこうわたしたちに語りかけてくださいます。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

主の祝福がありますように。
